

キャリア教育で子どもたちの未来づくり(学校での取り組み)

小学校5年生 豊後大野市内の企業見学

小学校5年生の社会科では、産業(農業や工業・通信・運輸等)の学習をします。その中で工場や農園の見学を通して働く人々の姿や経営の工夫等を学習します。市外への見学(ダイハツ九州工場・新日鉄住金大分製鉄所・NHKなど)もありますが、豊後大野市内の工場や農園へも見学学習を行っています。

【3校合同(菅尾小・百枝小・新田小)社会見学】

有限会社「お花屋さんぶんご清川」

10月9日(金)、菅尾小学校、百枝小学校、新田小学校の5年生が3校合同で清川町で約3.5ヘクタールのハウスで電照菊栽培を行う「お花屋さんぶんご清川」に社会見学に行きました。

「お花屋さんぶんご清川」では、1年間に約360万本もの菊が生産されています。平均すると1日1万本です。子どもたちは、その規模に驚き、自動化された硬質フィルム張りのハウスや出荷の様子に驚いていました。

菊の量がめちゃくちゃ多くてびっくりしました。ハウスに行くと、たくさん菊を育てていてびっくりしました。土にもこだわりがあるのを知ることができて良かったです。菊の種類もたくさんあることを知ることができて良かったです。面積が大きかったのでびっくりしました。

お花屋さんは、主に菊を作っていて、菊の種類は2種類ありました。

1つ目は、輪菊です。輪菊は主にお葬式で使われ、赤、白、黄色の3つでした。出荷するのに冷蔵庫に保冷してから出荷するそうです。

2つ目は、スプレー菊です。この菊は、とてもたくさん色があって使われるのは、お葬式だけではなく、普通にお店に売られるような花です。

私は、スプレー菊しか見たことがなかったので、輪菊のことも知ることができて良かったです。

一番最初に機械を見てそれぞれの重さで分けてそれを束にするというところに驚きました。

その次にハウスを見に行きました。ハウスは、ピーマンのハウスの2倍ぐらいあってびっくりしました。

電照菊のことは前から知っていたけれど、日長操作のためにしているとは知りませんでした。

また、花を咲かすために赤い波長の入ったLEDを使っていることもわかりました。2L・L・M・Sという大きさがあって、2Lが一番良いということやスプレー菊は花が5こ以上で輪菊は花が1こだということを知りました。

さらに、輪菊は、花のつぼみをとるので大変ということも知りました。

お花屋さんでわかったことは、花を選別して縛る機械が800~1000万円するということや「お花屋さん」という名前だけれど、花を育てるだけで、そこで売ってはいないことです。

ハウスの広さは、全体で3.5ヘクタールありました。ハウスの中の花は、冬の日には、ライトを当てて昼間を長くするということがわかりました。帰りにお土産として花をもらいました。うれしかったです。

お花屋さんに行きました。菊をサイズに切る機械で短い時間で作業ができることを知りました。機械はすごいなあと思いました。

スプレー菊はそのまま、輪菊は箱に敷き詰められて冷蔵庫に入れられていました。寒かったのでびっくりしました。

次に菊を育てるところにいきました。スプレー菊は、白・赤・黄だけでなくピンクでも何種類かあると聞いて、すごいと思いました。

最後に菊をもらいました。とてもきれいでした。



【千歳小学校社会見学】

大分県農協豊肥事業部千歳肥育牛試験研究センター

大分県畜産公社

10月16日(金)、千歳小学校の5年生が、千歳町にあるJAおおいの肥育牛試験研究センター(以下肥育センター)と犬飼町にある大分県畜産公社を見学しました。肥育センターでは、9ヶ月の子牛を約18ヶ月育てて出荷しています。年間約80頭の出荷をしています。その大部分の出荷先が畜産公社です。畜産公社では、大分県内唯一の食肉処理施設として、年間に牛を約6千5百頭、豚を約1万1千頭、食肉処理しています。

子どもたちは、複雑な気持ちで社会見学をしていました。「働くこと」や「命」についての学習でもありました。

千歳の肥育センターに行きました。それぞれ決まった部屋があってすごかったです。そして、まさか、牛のうんちが堆肥になるとは思いませんでした。

次に食肉センター(畜産公社)に行きました。そこでは、30秒手を洗ったり、消毒したり等の工夫がされていました。ぼくが一番良いと思ったのは、歌を流していたことでした。それは、脳をリラックスさせるためということでした。

牛の肉は、でっかくておいしそうでした。ただ、これからは、牛や豚などを食べる時は、感謝して食べたいです。

私が学んだことは、牛を育てる大変さと牛の命をたくさんもらっていたということです。

牛を育てる大変さは、毎日欠かさず一頭一頭にえさをあげていることです。私たちのために毎日働いてくれていることに感しゃです。

牛の命をもらっていることを学んだのは、毎日牛の血をあびながら安心安全なお肉づくりをしてくださっている姿からです。私は、今まで牛の命のことを考えないでお肉を食べていました。これからは、牛の命のことを思いながら大切に美味しくいただくと思いました。

肥育センターと食肉センターの見学に行きました。とくに心に残ったのは、食肉センターです。まずビデオを見た後、自分の体を掃除してからお肉工場に入っていました。風でほこりを吹き飛ばし、さらにコロコロでもほこりを取った後、30秒きっちり手を洗ってから入りました。

工場に入っていくと牛さんがつるされていて、切られている光景が目に入ってきました。私はかわいそうと思いました。でも、私は気付きました。それは、「かわいそう」ではなくて「ありがとう」という言葉にしないことにはならないことに。私は、これからありがたみを持ってお肉を食べようと思います。

最初に肥育センターに行きました。牛に毎日えさをあげるためになるべく休まないようにしているということと牛の行動を見ているだけで病気がわかるというところがすごいと思いました。

次に畜産公社に行きました。消毒の設備がきちんとしているなどと思いました。ちょっと中を見るのはきつかったけど、牛たちがどうやってお肉になっていくのかがわかりました。でも、牛たちがちょっとかわいそうでした。私は、牛たちはただ肉になるためだけに生まれたんじゃないで、生きるために生まれた命を私たちがもらっていると思いました。

私は、お肉を食べる前にちゃんと「いただきます」と言って、おいしく食べたいと思います。

最初に肥育センターに行きました。どんどん奥に行くと、もう少しで出荷される牛がいました。とっても大きかったです。しかし、少し悲しくなりました。

次に畜産公社に行きました。畜産公社は、牛や豚をお肉にするところです。ぼくたちは、牛を見ました。お肉にされる場所を見ると少し怖かったです。さばいている人は血まみれでした。そうやって働いている人がいるからおいしい肉を食べられるんだなどと思いました。

